

# 北海道聖書学院 2023年度 3学期(11/28~3/13) 聴講のための授業案内

《冬休み12/16(土)~2024/1/15(月)》 1月16日(火)より授業再開

曜日	科目名	講師・教師	授業内容
火曜日	ギリシャ語釈義①(統語)	小澤 和男師	ギリシャ語の初級文法を学んだ学生は、新約聖書の原文にあたりながら、ワレスの文法書を用いて、より深く、より正しく読む知識を積み重ねていきます。
	キリスト教史③	川崎 憲久師	三学期は、大航海時代~グローバル・多元化とキリスト教~自由主義神学をつまづき~福音派~ペンテコステ運動までの中で、日本のキリシタン時代や私たちの足もとである北海道キリスト教史概論を含めた「近現代の教会史」を学びます。
	エレミヤ書	齋藤 謙治師	印象的な箇所は多数あるものの、全体像が掴みにくいエレミヤ書。本講座では預言者の召命と苦悩、民の罪と立ち返りの要請、「新しい契約」といった主題を順に扱い、エレミヤ書全体のメッセージに迫っていきます。
水曜日	ヘブル語文法①	松元 潤師	旧約聖書の原典であるヘブル語聖書を読み、理解するための基礎的な学びです。 初めての方は「今学期」からご参加ください。
	牧会書簡	吉永 光生師	牧会書簡と言われるパウロの手紙の中から特にテモテへの手紙に焦点を当てて学びます。牧会者のあり方や牧会上の問題に導きと解決の光を与えるこの手紙について、みことばに丁寧に聞きながらその光を探ります。
	創世記	吉永 光生師	創造からアブラハム契約までを中心にして、古代オリエントの文脈を意識しながら学びます。聖書そのものの文学的枠組みを大切にしつつ、釈義的、神学的に理解を深めていきます。
木曜日	人間・罪論①	松元ハンナ師	聖書の示す人間観を学びます。神に似た者として造られた人間でありながら、神との交わりを拒み、歪曲している罪の問題を組織神学の視点から捉え、人間とは何者なのかを共に考えます。
	教理史(15回)	水草 修治師	本講の意図は三つある。一つは異端問題に対決する中で明らかにされてきた聖書啓示に基づく教理を正しく理解すること。一つは私たちが歴史を貫いて旅をしてきた「公同教会」の一員として励ましを受けること。一つはプロテスタント諸教派の教会と教理の形成発展を知ることにより自己理解と相互理解に役立つことである。
金曜日	新約聖書緒論	杉本 潤師	新約聖書が27巻に至った歴史や本文決定に至る背景(本文批評)を見、私たちの手にある新約聖書が神の言葉であることへの理解を深めます。
土曜日	新約聖書通論③	吉田麻希子師	新約聖書の各巻の背景を理解し、その内容を把握するための学びです。

※1 聴講を希望される方は、聴講願書にご記入の上、学院へご提出ください。所属教会の責任者の推薦が必要です。

(聴講願書は、同封いたしました。足りない場合は、コピーしてください。)

※2 聴講料は1科目につき、1学期間15,000円です。3回に分割して納入することもできます。(1ヶ月5,000円×3回)

複数の科目を聴講し、1ヶ月の聴講料が20,000円以上になる場合は、20,000円を超過した分は免除となります。